

みんなの らいいふ

前橋市自立支援協議会広報 みんなのらいいふ 第8号

発行日 平成27年4月1日

題字： 三森 樹彦 様（光明園）

発行元：前橋市自立支援協議会

お問い合わせ先：

前橋市障害福祉課 前橋市自立支援協議会

広報啓発部会 事務局

電話027-220-5713 Fax027-223-8856

ホームページ <http://www.city.maebashi.gunma.jp/kurashi/42/125/139/p002057.html>

参加者を募集します

障害者の体力づくり・体力維持を目的に、以下の2つの事業を行います。スポーツを通じ、相互交流を深めましょう。参加を希望する方は、前橋市障害福祉課までご連絡ください。団体加入者は、各団体の代表者へご連絡をお願いします。

前橋市障害福祉課 電話：027-220-5713 FAX：027-223-8856

○ウォーキング・軽スポーツ教室



ウォーキングとグラウンドゴルフを行います。誰でもできる競技なので、初めての方でも心配いりません。新緑の中で楽しく体を動かしましょう。

【日時】

平成27年5月24日（日）

午前10時～午後3時 ※雨天の場合は中止

【会場】

前橋総合運動公園（前橋市荒口町437番地2）

【参加資格】

前橋市に在住し、障害者手帳（身体、知的、精神）を取得している方や難病患者等及びその介護者

○ふれあいスポーツ大会



例年は秋に行われている本大会ですが、今年度は会場の都合により、6月の開催となりました。徒競走や車椅子競争、輪投げ、フライングディスクなど多彩な競技を実施します。

【日時】

平成27年6月21日（日）

午前9時30分～午後2時30分

【場所】

前橋市宮城体育館（前橋市鼻毛石町1561）

主競技場内

【参加資格】

前橋市に在住し、障害者手帳（身体、知的、精神）を取得している方及びその介護者

こども部会より

「前橋市療育ネットワーク推進会議研修会」を開催しました

前橋市自立支援協議会こども部会では、昨年12月15日に「前橋市療育ネットワーク推進会議研修会」を開催しました。今回の研修は、障害児に関わる様々な業種の「顔の見

えるネットワーク作り」を目的として、学校教諭や放課後学童クラブ職員、障害福祉サービス事業所職員など、109名の方にご参加をいただき、大変有意義なものとなりました。

第一部 学齢期の児童支援について（市各課より説明）

障害福祉課より

学齢期に利用出来る福祉サービスの紹介（放課後等デイ、集団活動訓練事業、移動支援、相談支援事業等について）

学校教育課より

小中学校の特別支援教育の紹介、小中学校における障害児の支援の体制等について（特別支援教育の範囲、就学先決定の流れ、校内支援体制、授業、生活の中での工夫等）

こども課より

前橋市こども発達支援センターの紹介（保護者相談、ペアレントトレーニング、親子教室、運動発達教室、保育所、保育園、幼稚園訪問支援等の概要説明）



第二部 情報交換会

学校教諭、放課後学童クラブ職員、相談支援事業所職員、放課後等デイ職員そして前橋市職員10名でグループを作り、計11グループに分かれて情報交換会をしました。なかなか普段関わる事の出来ない職種の方々と、自由に意見交換をしました。



～ 研修会を開催して ～

今年度こども部会のテーマである「顔の見える関係作り」を目指して、本研修では、講義のみにとどまらず、『学齢期の支援を必要とする児童』をサポートする関係機関（学校、学童クラブ、行政職員、放課後等デイ）の職員が集まって直接情報交換出来るグループディスカッション（情報交換会）を行いました。情報交換会で挙げられたテーマは、放課後、進路、家族への支援、他職種との連携など多岐にわたる内容となりました。初めての取り組みでしたが、参加者からは、「自分が知らなかった情報を沢山知ることが出来た」という感想をいただき、おおむね好評でした。情報交換会で挙げられたテーマやそれに対する各々の職種からの意見によって、本市における児童障害福祉の地域課題が明らかになりつつあると感じられます。本研修で挙げられた意見は今後のこども部会の検討課題の抽出に役立てたいと思います。今後も、関係者との顔の見える関係を大切に、こども部会の活動に取り組みたいと考えます。

こころのユニバーサルデザイン

みなさんは、「こころのユニバーサルデザイン」という言葉を知っていますか？

ユニバーサルデザインというと「まち」や「もの」をつくるための考え方というイメージが強いと思います。「こころのユニバーサルデザイン」は、「まち」や「もの」のユニバーサルデザインと分けられないものであると同時に、足りない部分を補う大切なものです。私

たちの街にはユニバーサルデザインが行き届いていない施設がまだまだたくさんあります。車イス利用者がそのような施設の段差のある出入口で困っているとき、周囲の手助けで出入りが可能になることもあります。

ここでは、街で障害を持つ方が困っているときに、どのようにお手伝いができるか、ちょっとしたコツをお伝えします。

1. お手伝いの例（車イス）

- ・少しかがんで目線を合わせて話すと、気持ちが伝わりやすくなります。
- ・ひとりでは不安なときは、周りの人たちにも協力してもらおうと良いでしょう。



【スロープや坂道でのお手伝い】

- ・上りは、体を前に傾け自分の体重をかけながら押します。
- ・下りは、後ろ向きで支えながら下ります。



スロープを下るときのお手伝い

【車イスをご利用の方から】

- ・「車イスをいきなり後ろから押されるとびっくりするので、必ず声をかけて欲しいです。」
- ・「エレベーターの「開く」ボタンや階数ボタンを押してもらえると助かります。」

2. お手伝いの例（視覚に障害のある方）



- ・誘導する場合は、ひじか肩を持ってもらうとよいでしょう。
- ・できるだけ周りの様子を伝えましょう。
- ・段差のある場所では立ち止まって、「のぼりの階段があります」など、具体的に分かりやすく説明するようにしましょう。

【視覚に障害のある方から】

- ・「白杖を持った人を見かけたら、「大丈夫ですか？」、「何かお手伝いしましょうか？」と声をかけてもらえるとありがたいです。」
- ・「特に危険を感じる「駅」や「横断歩道」で声をかけてもらえると、とてもうれしいです。」
- ・「電車やバスの車内で、空いてる席があれば、教えてもらえると助かります。」

みんなのアーツ（作品介绍）



【題名】夜景

【作者】埴 真弓 さん（桂荘）

色鉛筆画

題字・イラスト募集

本誌に掲載する題字と季節のイラストや挿絵を募集しています。あなたの作品で本誌に彩をそえていただけませんか。詳しくは事務局（連絡先は表紙に記載してあります）へお気軽にお問い合わせください。

使いやすいハサミ（ユニバーサルデザインの紹介）

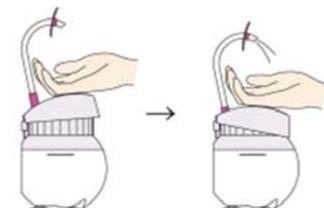
日常、何気なく使っているハサミですが、親指と人差し指、中指3本を利用してバランスよく持つ必要があります。このハサミはグリップの形状が工夫されており、どんな方向からでも自由に握ったり、手のひらやひじで押ししたりすることで利用できるため、指や手首に負担がかからないようになっています。小さいお子さんからお年寄りの方まで多くの方が使いやすいと感じるデザインになっています。手指の不自由な方のリハビリの道具としても利用できます。安全カバーもついているので安心して使うことができます。また、音が出るので、どなたでも楽しく使うことができますよ



これなあ～に？



片手で使える詰め替え容器です。蓋の中にポンプが組み込まれており、手のひらを上に向け、手の甲で円形の蓋を押しすることで、手のひらにノズルから液体が出てくる仕組みになっています。蓋を押し力加減で、出る液体の量を調整することができます。片手だけで、手のひらやスポンジ、タオルの上に液体を受けとめられます。シャンプーやリンス、ボディソープ、ハンドソープ、食器用洗剤など、いろいろな用途に利用できそうです。



答えは・・・「ソープディスペンサー」

編集後記

いよいよ、新年度が始まりました。毎年恒例の「ウォーキング・軽スポーツ教室」には、私も昨年係員として参加させていただきました。五月晴れの空の下、新緑に囲まれた中でスポーツは本当に気持ちが良いです。皆様ぜひご参加ください。「こころのユニバーサルデザイ

ン」では、車イスの方や視覚障害を持つ方へのサポートのコツを掲載しました。障害や高齢に限らず、街で困っている人をさりげなくサポートできる「カッコイイ」大人が増えれば、前橋はもっと素敵な街になると思います。そんな大人を目指して、私も日々修練しなければ。